

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271600704		
法人名	社会福祉法人 長崎友愛会		
事業所名	ゆうあいホーム今里		
所在地	南松浦郡新上五島町今里郷251-32		
自己評価作成日	令和5年11月9日	評価結果市町村受理日	令和6年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和5年12月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着だが、今年は、規模を小さくしてホーム・小規合同で敬老会を行った。コロナが落ち着いたら期待してほしい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海や山に囲まれた自然豊かな環境の中、入居者は季節の移り変わりを感じながらゆっくりと当ホームで過ごすことができる。理念に「真愛」・「もっと笑顔で、自分らしくを大切に」を掲げ、介護が必要になってもずっと自分らしく生きていきたい！という入居者の思いを受け止めるよう努めている。職員は入居者の日々の生活を大事にして「もっと優しく」「もっと温かく…」をモットーに入居者一人ひとりが好きなこと、やりたいこと、行きたいことを入居者との会話の中で把握しながら、それを実現できるよう取り組んでいる。コロナ禍前は地域住民と一緒に年に3回、父母会、納涼祭、敬老会を行っており、今後、ホームとして徐々にこれらの取り組みを再開し、地域社会とのつながりを継続していく意向である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A)	実践状況(ユニット名: B)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し、常に実践に繋がっている。	今年度は、敬老会のみ施設主催で行ったが、例年は地域との交流を心掛け、地域に根差した事業を目指している。	リビングに理念を分かりやすいよう掲示し、常に職員が理念を目にする機会があり、周知に繋がっている。毎月の職員ミーティングや日々の支援を通じて実践状況を確認し、職員は理念に沿った支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍などで日常的な交流は、ほとんどありません。	コロナ感染者が不安定な事もあり、以前のような地域との交流には、まだ至っていない。	ホームは自治会に加入している。6月には職員が地域の草刈りに参加し、地域の一員として顔の見える関係作りに努めている。以前は中学生がボランティアとして来所したり、地域の小学校や幼稚園、保育所と交流があった。コロナ禍が収束したら交流を再開する意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で、まず地域の方々と交流ができないので、あまり活かせてない。	コロナ禍もだいぶやわらぎ地域の方の訪問も少しづつできるようになった。ただ、ほとんどの情報は、運営推進会議の中で交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、上司が行っている為、取り組みや状況報告出来ていると思う。	2ヶ月に一度、対面でできるようになってきた。メンバーも新しくなり、状況報告は行っている。	運営推進会議の構成メンバーとして、民生委員、郷長、町議、役場職員、家族代表が参加し、2か月に1回開催している。入居者状況、行事報告、苦情や事故の状況等、質疑応答・意見交換を行い、ホームの運営に活かしている。	消防訓練を行った際は運営推進会議へ報告すると共に、可能であれば訓練時の写真も添えて報告することを期待したい。また、会議の中で出された意見交換の内容を議事録として残し、会議に参加していない家族にも配布してホームの実情や取り組みを周知する機会に繋げることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A)	実践状況(ユニット名: B)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	出来ていると思う。	役場の健康保険課の方が、運営推進会議に参加されているので情報を取りあえる。地域包括の方から問い合わせがあるので、協力できることには対応させていただいている。	運営推進会議の構成メンバーに上五島町役場の担当者が参加し、意見交換を行っている。地域包括支援センターより入居相談の問い合わせがあるなど日頃より協力関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、会議の中で内部研修を行っている。また、身体拘束の必要な入居者については、家族の同意をえている。	年に2回、内部研修で学ぶ機会を設けている。危険防止で行った事は、記録するようになっている。	評価調査日現在、身体拘束が必要な入居者はいないが、以前、転倒防止のために4点柵を実施する入居者がいた際は、家族より同意を得、毎日、取り組み状況について話し合いがなされ、記録を残していた。現在も日中は玄関の施錠せずに取り組んでいる。	今後、運営規程に「虐待の防止のための措置に関する事項」を明記し、ホームの体制整備に具体的に取り組むことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待ではないかと思う事は、職員へ状況を聞き注意している。月に1回のフロアミーティングで確認をしている。	個人的にその現場を見知した時は、しかるべく行政機関に通報する覚悟はしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員へは必要があれば、全体会などで紹介している。	職員へは必要があれば、全体会などで紹介している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A)	実践状況(ユニット名: B)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	スタッフでわかりかねるところもあり、上司への確認なしでは勝手に判断できないので、上司へ確認を常に行っている。	介護支援専門員、管理者が担当し、納得していただけるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会の中で、意見や要望があれば聞くようにしている。また、申し送りなどで情報は共有し、対応するようにしている。	現在は島外関係なく、玄関先にて面会可能となった。家族からの意見、要望が入れば、添えるよう皆で共有し対応している。	コロナ禍が第5類に移行後、面会は玄関先にて島外者関係なく可能となった。家族が面会に訪れた際は、職員が要望や意見を聞くようにしている。年2回、入居者の様子が分かるよう写真を添えて便りを家族へ発送したり、日頃よりラインや電話で家族へ入居者の状況を報告している。	入居時の重要事項の説明として、第三者(外部)評価の受審状況についても家族等に説明することが求められており、重要事項説明書において第三者(外部)評価の受審状況が分かるように、第三者(外部)評価実施の有無、評価実施日、評価機関名、評価結果の開示状況を記載するとともに、重要事項説明時には受審に合わせて家族へアンケートを実施し、家族の意見をくみ取る機会とする旨説明することを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議や面談等を通じて、日頃から職員の意見を聞き、できるだけ対応しようとしている。	月2回の会議、その他勤務中において行事の提案などあり、企画につながっている。	毎月の職員のミーティングを通じて、入居者の支援方法や行事企画の提案等、活発な意見交換の場となっている。職員は意見や提案が出しやすい職場環境であることを認識されており、職員が明るく互いに助け合う意識が醸成されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価、給料の見直しなどあり又、ホームでの取り組みの努力など理解し評価されている。	個々の勤務希望に添える様、話し合いを持っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A)	実践状況(ユニット名: B)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は毎月行われており、外部のリモート研修の参加などを行っている。	研修の情報が入り次第、適切な人材に案内している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会のつながりがあり、地域がら他の事業所、施設とのつながりは深い。	オンライン研修ではなかなか難しいが、その場所に出向いての研修では、他の施設のスタッフと意見交換ができ、ケアに活かせる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	導入時は、ご本人、ご家族共に話す時間をとり、電話での連絡をいつでもとれるようにして不安なくサービス利用ができるよう心掛けている。	信頼関係を築く為に、その方に関心、興味を持ち 傾聴する事が大切なのかなと実感する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今まで困ったことやこれからの不安を傾聴し、ご家族の関係作りに努めている。	出来る事、出来ない事、色々試している事、何でも話していくことが大切かなと思う今日この頃です。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A)	実践状況(ユニット名: B)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族との関係も大事です。要望に耳を傾けながら、信頼関係を気づいていきたいです。	ご本人の状況とご家族の状況を判断し、その時に必要なサービスを勧めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能なかぎり本人の能力に応じて、テーブルふき、洗濯物をたたむなど日常の中で職員と一緒にできる声掛け、準備、配慮を行っているが、認知症の重度の方が多く1~2名の方に限られている。	何人かの方に洗濯物たたみや新聞折など本人ができる手伝いを見つけている段階である。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染予防もあり面会制限が長く続いているが、できるだけ面会できる工夫をしたり病院受診時に会う事が出来るようにしてきた。また、遠い所に住む家族には、夏冬の時期に、暑中見舞い、年賀状などで家族との絆をたちきらない工夫をした。	遠方に住んでいると面会も難しく、時にはTEL、葉書などで近況報告を行い、安心して頂くよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時の情報、本人からの情報に意向、家族の意向等を確認しながら、人や場所の関係が途切れないような支援を可能な限り行っている。例えば、自宅近くへドライブに行き、知り合いの方と世間話をしてくるなど。	知人と会う事は難しいが、お墓参りは希望に添える様対応している。	入居者は職員と一緒に入居者の自宅付近へドライブに出かけるなど本人の意向に沿うよう努めている。暑中見舞いや年賀状の作成・送付など、馴染みの関係が途切れないよう努めている。入居者の親戚が美容師で、ホームを訪問し散髪を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A)	実践状況(ユニット名: B)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常のほとんどを狭い食堂居間のフロアで過ごされている方がほとんどのため、利用者同士トラブルなく関わりあえるよう観察、座席の配置の検討等細かく行い、必要に応じて職員が間に入るなど援助を行っている。	一緒に物づくり(新聞折、ケーキ作りなど)レクリエーション等で話し、お互い話し易い環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転所のケースは今年度はなく、死亡退所については職員で通夜に行ったり葬儀に立ち会うなどし、家族の方に声掛け、思い出話などしグリーンケアのそうだんなどが出来る環境に配慮している。	入院が長引き契約が終了しても、外で会った時など話しかけるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症の重度化により困難なケースが多いが、その場合でも本人本位を第一に検討し対応している。	今後の希望よりも、今、どのようにするのがベストなのか考えている。	職員は入居者との会話や表情から思いや意向の把握に努めている。生活の中で今飲みたいものは何かといった些細なことも含め本人の希望に添えるよう努めている。職員は入居者がホームでの暮らしの中で人生を楽しく過ごしてもらえよう支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	それぞれ個人の生活履歴については、入所時の情報提供や、必要に応じて家族の方などから伺い、これまでの暮らしの把握に努めている。	自宅で、どのような事をしていたのか本人、家族より聞き、近い状況に持っていきたいと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A)	実践状況(ユニット名: B)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活に職員は密に接している為、能力の把握はできているが認知症の重度化がすすみ、全介助の方が多くなっている。(3~4割)	個人の過ごし方は、おおむね把握できている。心身の状態は、日によって多少の違いはあるので職員間で情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングはできていない。家族や必要な関係者をまじえての会議は一度も行われていない。ほとんどケアマネが、職員以外とは連絡調整を行い決定している。	穏やかな生活が送れるように本人に傾聴し、職員同士話し合い、必要に応じてドクターの相談をしている。	職員は入居者の状態について日々モニタリングを実施し、管理者や計画作成担当者に報告し、介護計画に反映している。家族や本人を交えた担当者会議は開催していないが、家族へ介護計画を説明し同意を得て実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は行われているが、手書きの為に記入スペースが少なく、十分に記録が実践や介護計画の見直しに活かされていない。日誌やメモノートにちょっとした様子、工夫など書き加える程度の情報の共有はできている。	申し送りノートを利用し、気づき、要望を記入し共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望をできるだけ実現したいが、コロナ感染症予防とあいまみえ、終末期、看取りなどの特別な場合のみ、外泊・面会など行いました。	ご本人、ご家族の状況に合わせてもらえる事は、他からの協力を得ながら対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A)	実践状況(ユニット名: B)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの流行長期化により、家族、病院などを継続する事はなんとかできているが、その他の地域資源の活用は、ここ3~4年困難です。	職員、ご家族での支援を行っている。本人が欲しいものを、職員が代行して買い物をしたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時かかりつけ医の確認を行い、通院に北魚目診療所、若松診療所、奈良尾診療所、上五島病院その他歯科へ援助を行っている。	一人北魚目診療所に行く方もいるが、地域の特性で病院は上五島病院のみだが、皆さま主治医が決まっており、適切な医療支援は行えている。	受診にはホームの職員が同行し対応している。家族には電話などで受診時の連絡、報告を行っている。服薬が変更になった場合は、個人記録、業務日誌、申し送りノートへ記載し、職員間で情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の変化についての情報の他、職種との共有は日誌、申し送りで行っている。週一回の訪問看護へは、できるだけ相談・報告を行っている。	訪問看護の日に、聞きたい事伝えたい事は、職員間でその日出勤する職員に伝え、当日伝えてもらっている。看護師も必要に応じ、病院との連携をとっていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の情報提供はできるだけすみやかに行う。入院生活で協力できるところは行う。(選択支援)退院がスムーズにできるよう情報交換は、主任・ケアマネを通じて行っている。	状況の判断を病院と連携しながら連携室の担当の方と連絡をとりあい、退院後のことまで検討し、安心して入院生活ができるようにしている。早期に退院できる時はすぐに対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A)	実践状況(ユニット名: B)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族とは元気な時に話をするよう心掛けている。ご家族の要望によっては、ホームでの看取りも対応している。	医療行為を必要としない場合のみ施設での看取りも可能であることを、家族に説明している。	入居時に重度化や看取りに関してホームですることを十分に説明し、家族と意思確認書を交わしている。家族や本人からの希望があれば看取り支援も可能である。尚、これまでホームでの看取り支援の実績はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修や1年に一度の救命講習を通して対応はできるようにしている。	1年に1回、消防署での救命救急の研修に参加。ナースによる応急手当のやり方を学んでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	災害対策は、全員が身につけるように訓練、実施するようにしています。	避難訓練等を定期的に行い、対策している。	コロナ禍以前は避難訓練を地域の消防団と一緒に進めていたが、コロナ禍の影響で現在は地域の協力体制が充分できているとは言えない為、今後、施設長は消防団へあらためて協力依頼を検討している。町役場と避難場所や備蓄の保管などを話し合い、有事に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人にあった言葉かけや対応をしています。	職員同志で気になる言動がある時は注意したりしています。汚染のある時は部屋へ誘導し、恥ずかしい思いをさせない様になっています。	日中、ポータブルトイレを使用しない場合はカバーをかけるなど目隠しをして配慮している。排泄を失敗した場合は本人に恥ずかしい思いをさせないように他の入居者に分からないように居室へ誘導している。接遇研修は年に2回実施し、入居者一人ひとりにあった優しい声かけ対応を職員全員で意識して行っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A)	実践状況(ユニット名: B)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り本人の希望を聞いたり、希望を取り入れる事は行っているが、入所から長期滞在されるにつれ、認知症の重度化が進み自己決定が困難な場面が多くなっている。	どうしたいかはその都度問いかけながら、ケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には本人のペースにあわせた日常生活の支援をめざしているが、職員の離職、新規職員がいないなどあり、入浴時間の希望や病院受診、理美容院の利用など希望に添えない事も多くなっている。	業務に追われる日もあり、現実的には添えたり、できなかったりです。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を選んでいただく。行事で化粧品をつけておしゃれをするなど行っている。また、毎日の洗面、清潔な衣類を着用していただくなど心掛けている。	起床時には、髪にくしをとおしたり、化粧水をつけたりと整容は心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話の中などから一人一人の食事の好みなど伺い、毎日の食事のメニューに取り入れたり季節のメニューの取り入れ、行事食の工夫をするなど行っている。認知症が重度の方が多いため準備や片付けが出来る人は1~2名と限られている。	食事の前のテーブル拭き、食器の下膳、食材の皮むきなど、個々で出来ることをやってもらっている。	食事は職員の手作りで旬の食材が食卓に並んでいる。ホームの菜園で収穫した玉ねぎやサツマイモを食材として使用することもある。誕生日やクリスマス、正月には何を食べたいか、入居者にリクエストを聞いて提供しており、入居者に喜ばれている。食事前のテーブル拭きや下膳、食材の皮むきも入居者と職員と一緒にしている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A)	実践状況(ユニット名: B)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の確認、食事形態の申し合わせを行っている。また、主治医よりの水分制限等については、受診時確認している。	食べる量も個人差があるので、体重測定や血液検査等で十分なのか確認している。水分を摂る量が少ない方には声掛けたり、好きな飲み物を出してできるだけとってもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。十分にケアできなかつたりひとりで出来ない人には介助するなど個々の能力に応じて行っている。	毎食後口腔ケアをしてもらっている。自力で出来る方、介助が必要な方、それぞれに合わせている。また、入れ歯を毎日洗浄していただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレ使用ができる様、日中の排泄の声掛け・誘導を行い、排泄の自立をうながしてはいるが、体力低下、認知症進行と共に排泄の自立が困難な場合も多くなっている。	失敗のある方には、排泄の時間を見て昼、夜声掛けをしたり尿取りの確認をするようにしている。	職員は排泄チェック表にて入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。失禁を防ぐことでおむつ代の負担軽減にも繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事メニューに発酵食品(みそ、ヨーグルトなど)食物繊維を多く取り入れるなどの工夫を行っている。個々に応じ病院での下剤の処方を受けるなどの対応を行っている。	食事での工夫は、牛乳・バナナ・ヨーグルト等を摂ってもらったり、体操したり、個々の便秘薬を病院で相談し、処方してもらったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A)	実践状況(ユニット名: B)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週1回シーツ交換以外は、入浴を行い、その方に合わせたお湯加減やとり方をしている。	入浴中の入居者の好きな話題で、楽しく入浴できるよう努力しています。	週に2~3回の入浴を基本に支援している。入浴を拒否する入居者には、声掛けする職員を変更したり、入浴時間を変更するなど柔軟に対応している。体調不良の為に入浴ができない場合は、手浴、足浴、清拭などを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない程度で、休みたい時は部屋に戻り休んでいただいている。空調も気持ち良く休んでいただけるよう管理している。	眠気があれば休んでいただく。夜間眠れていなければ日中、少し休んでいただく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のケース記録に薬の説明書と同じいつでも見れるようにしており、頓服で出されるお薬は申し送りや薬箱に貼り把握できるようにしている。	誰が見てもわかるよう処方薬ノートがある。服薬確認しながらできている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日によって職員の数が少ない日もあるが、体操・レクやドライブなどの声掛けは全員に行っている。	自宅で行っていた事を取り入れ、穏やかに生活できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A)	実践状況(ユニット名: B)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば可能な限り行った。今年度は、墓参り、自宅への外泊など行った。	散歩は、その日の状況によって行っている。お墓参りなど要望があれば、家族と相談し外出している。	職員は入居者との会話の中で外出の希望等を把握し、散歩やドライブなど、入居者の気分転換を図っている。家族の協力を得て墓参りや、本人の自宅へ外出、外泊など実現できるよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	地域がラスーパーなど近づく、必要なものは本人に伺ったりし、職員が購入している。お金はすべて管理できる方も少なく事務所で管理する方がほとんどである。	事務所の方で管理しているのが現状だが、ご本人が望まれるものや必要なものは職員が代行で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、その都度対応している。手紙は、本人と話をし職員が代筆することが多い。	家族の都合にあわせて電話してもらうことあり。年に2回、年賀状、暑中見舞いを写真つきで葉書を送っている。LINEで、写真・動画を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごせるために環境整備に努めているが、認知症の進行の為、不快な声、同じ音楽の繰り返し、理解困難な話しかけをする。他の方の食事を摂って食べるなど対応が困難な事も多い。	リビングには、季節を感じられるように月ごとに手作りの作品を展示している。花等もかざっている。	リビングの壁面には入居者と一緒に制作した季節の作品を飾り、季節感を感じられるよう工夫している。リビングやウッドデッキにはソファやベンチを置き自然豊かな景色を眺め寛げるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況(ユニット名: A)	実践状況(ユニット名: B)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの中のテーブルに座る際の組み合わせは、相性を考え、配慮している。1人になりたい時は、居室に戻りくつろいで過ごされている。	一人の空間は、居室のみになる。リビングでは、仲の良い方同士会話している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室は、担当の職員と入居者の方で思い思いに居心地より居室作りを行っている。例えば、孫や家族の写真を壁に貼ったり、アルバムに整理し、いつでも見れるようにする。衣類をしまうタンスには引き出しごとラベルを貼るなど。	居室には、家族の写真、位牌を置いている。本人の枕、毛布を使っている方もいる。	入居者毎の職員担当制を採用し、職員が毎日の清掃や環境整備を行っている。タンスには分かりやすくラベルを貼り、入居者が自分で整理ができるよう配慮している。馴染みの家具や仏壇、位牌などが持ち込まれ、壁には写真や作品を飾り、入居者本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの居室入口に名前の札を貼る。言葉がわからない外国の人のため母国語でトイレなどの標識を貼るなど行っている。	居室にカレンダーや時計を置き、日にちや時間の把握をしていただくようにしている方もいます。		